

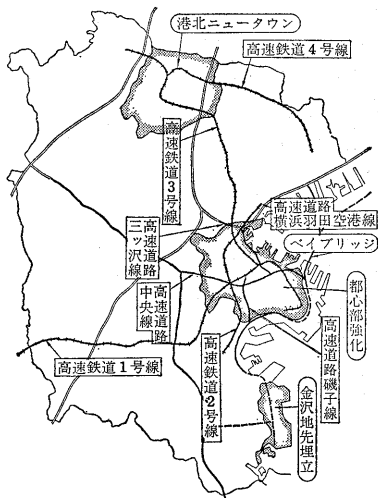


23 六大事業

横浜の骨組みを作る六大事業

横浜は戦後、都心部の大半を長期にわたって接收されたことなどにより、他都市にくらべて都市の骨格づくりへの着手も遅れている。また、高度経済成長の中で国の投資も産業中心に行なわれる一方で生活基盤への投資がおくれたことや、都心機能の集積や交通網の形成が東京中心に行なわれたことなどから、大都市としての機能にさまざまな歪みを生じた。そこで、二六〇万市民の住む大都市横浜を広域都市圏の中での中核都市として築きあげるため、都心部強化、金沢地先埋立、港北ニュータウン建設、高速鉄道（地下鉄）建設、高速道路建設、ベイブリッジ建設の六大事業を戦略的プロジェクトとして設定し、横浜の都市としての骨格づくりを進めている（図132）（表15）。六大事業は単なる施設の建設計画ではなく、公害や交通事故などの危険から市民を守り、生活環境を向上させ都市活動の機能を確保するなど、総合的な目的をもったものであり、今後も市民の参加のもとにその実現をめざしている。

図-132 六大事業計画図



〔資料〕 企画調整局



六大事業

表-5 六大事業のねらいとおもな進捗状況 (49.8 現在)

	●目 的	●内 容	●事業のおもな状況
都心部強化	横浜の心臓にあたる都心部を、大都市横浜の中心にふさわしい機能を備えるよう整備する。	横浜駅周辺、関内周辺、野毛・桜木町周辺などの主要地区の再開発を実施。	横浜駅周辺 西口周辺地区は第二広場の計画を終了し、地区内の建築の指導規制を行なっている。東口周辺地区は横浜駅東口開発公社を設立し、関連施設の都市計画決定及び事業認可取得。 関内周辺 大通り公園の整備に着手、関内周辺地区では防災建築街区はほぼ完了、中央地下街基本計画策定。 野毛桜木町周辺 準備組合を設立し、基本計画を作成。 その他地区 本牧地区他4地区の計画を作成中。
金沢地先埋立	都心部に散在する立地不適当な工場を移転するための用地として金沢地先に埋立地を作る。	金沢地先に660万 m^2 の土地を造成し、近代的な工場団地、住宅団地、海の公園などを作る。	1号地 埋立工事を終了し関連公共施設整備に着手。 2号地 護岸工事、埋立工事を施工中。 3号地 埋立認可取得済。
港北ニュータウン建設	急激な都市化による乱開発を防止し、計画的な都市づくりを行ない、都市と農業の調和を図る。	港北・緑の両区にまたがる2530haの土地に昭和60年度までに人口30万人の新しい都市を建設する。	基本計画策定完了、日本住宅公団施行地区(1316ha)は着工。関連街路及び河川改修工事を施工中。
高速鉄道(地下鉄)建設	郊外部と都心部を結ぶ新しい市民の足として地下鉄を建設する。	1号線ほか3路線、約70kmの路線網を建設。	1号線 上大岡～伊勢佐木長者町間(5.7km)47年12月開通、伊勢佐木長者町～関内間 50年度開通予定。 3号線 関内～横浜間 50年度開通予定。
高速道路建設	横浜の都心部と東京や東名高速道路とを有機的に結びつけ、市内の自動車交通を円滑にする。	都市内高速道路として横浜羽田空港線・三ッ沢線等4路線約28kmを計画。	横浜羽田空港線 鶴見区朝日町(川崎市界)～神奈川区金港町間開通、神奈川区金港町～中区新山下町間工事中。 三ッ沢線 神奈川区金港町～西区楠町間開通、西区楠町～神奈川区三ッ沢西町間工事中。 中央線 保土ヶ谷区狩場町～中区元町間工事中。
ベイブリッジ建設	横浜港のシンボルとし、本牧ふ頭・根岸臨海工業地帯等からの大型貨物車を市の中心部の道路から排除する。	東京湾環状道路の一環として、本牧～大黒ふ頭～生麦に至る延長6kmの道路を建設。	横浜港横断橋の設計を実施中。

【資料】企画調整局